竹下復興大臣挨拶空母「ロナルド・レーガン」
入港歓迎レセプション挨拶
(平成27年10月2日(金) 19:03～19:12
於:米空母「ロナルド・レーガン」艦上)

1. 発言要旨

御紹介をいただきました、復興大臣の竹下亘でございます。

第7艦隊司令官アーコイン中將、第7艦隊アレキサンダー少將、在日米軍司令官ドーラン中將、空母ロナルド・レーガン艦長ボルト大佐、乗組員の皆さん、ケネディ駐日大使、御列席の皆さん、本日は日本国政府を代表して、改めて空母ロナルド・レーガン乗員の皆様、在日米軍の皆様に歓迎の言葉と、そして、心からの御礼の言葉を申し上げるために、今、ここに立っています。

我が国はさきの国会で、平和安全法案を可決、成立をさせました。国家として一番やらなければならないことは、国民の命と豊かな平和な暮らしを守ることでございます。この平和安全法案はそのために、正に切れ目のない体制をつくるという重大な意味を持つ法案であると認識をいたします。

こうしたときに、この第7艦隊の主力空母であるロナルド・レーガンが横須賀に寄港し、そして駐留していただきますことは、大変有り難く、これは日本国の安全のみならず、正にアジア・太平洋地域の安全と安定、平和のための抑止力として大変寄与することであると心から歓迎を申し上げる次第でございます。

それだけではありません。私は今、復興大臣を務めておりますが、先ほどから話が出ておりますように、東日本大震災、大災害を受けました際に、このロナルド・レーガンは、トモダチ作戦を実行してくれた旗艦でございます。

物資の輸送や救助、搜索等々、アメリカ軍は日本と正に協力をして、被災地を支えてくれた。私と、そして日本国民は、このご恩を決して忘れることなく、心からの感謝を申し上げます。

少し個人的なお話をさせていただきますと、実は私の兄の竹下登が総理大臣を務めておりました時期、アメリカを訪問いたしますと、レーガン大統領に非常に親しくさせていただきました。ロン、ノボルというファーストネームで呼び合う仲であり、そのことは私にとりましては、二重の意味で、このロナルド・レーガンという名前は、忘れることのできない大事な名前でございます。

今、復興は着々と進んでおります。まだまだやらなければならないことはたくさんございますが、世界の皆さん方からお支えをいただき、そして、日本国中からも引き続きお支え続けていただいております。復興は着実に進展をしつつあります。

我々には1つ目標がございます。それは、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが決定をいたしておりますが、そのときにお見えになった世界中の方々に、日本はここまで復興したぞということをしっかりとお見せしなければならないと、こう心に決めております。

ロナルド・レーガンの乗組員の皆さん方も、是非時間を見つけて、東北の被災地を訪問していただければ、本当にありがたいと思う次第でございます。

何はともあれ、トモダチ作戦を実行していただいた、ロナルド・レーガンを始めとするアメリカの皆様方に、改めて心から感謝を申し上げ、そして、心から歓迎を申し上げる次第でございます。

ありがとうございました。

(以 上)